

地域医療体制を守ろう！

全国的に医師不足・看護師不足が問題となつていますが、背景には地域医療の現場で働く女性の労働環境の問題があります。2007年の医師国家試験合格者に占める女性の割合は33%という高率であり、看護師も男性看護師の割合が増えているとは言え、約95%は女性が占めています。そのため女性が働きやすい職場環境の整備に努めることが必須です。市民病院には院内保育施設等を整備されましたが、民間病院における施設・体制整備は遅れており、このような官民格差の解消に取り組みよう訴えています。さらに、看護師不足の原因として養成校の減少による需要と供給のアンバランスが挙げられます。福山市としても医師会看護学校に頼るばかりでなく、より積極的な対応が望まれるところ

です。また、救急医療の現場でも多くの女性が働いています。しかし、多くの女性医師・看護師には夜勤回数の少ない大規模病院への移動や、皮膚科や眼科といった救急の無い診療科への移動といった現象が見られます。その結果、1次・2次救急を担っている民間病院の人員不足は著しく、救急車の受け入れが難しい状況に陥っています。民間救急医療期間への新たな公的助成措置を求めています。

さらに、夜間の不要不急の受診「コンビニ受診」や、クレームの多い「モンスター患者」がスタッフの疲労を一層助長させています。こうしたモラルの問題ですから、行政・医療機関頼みではなく皆さんで地域医療を守ろうという気概が必要になってきます。

活動報告

ローズパレードとRSSG'08

5月のばら祭にて、福山出身の若手バンド「矢印」のメンバーとローズパレードに出場し、大いに盛り上げました。また、9月には矢印主催の「River Side Grove 08」に参加しました。芦田川の環境問題と音楽のコラボイベントであり、収益金の一部でカヌーを買い、芦田川環境マネジメントセンターに寄贈し、多くの若者が芦田川に関心を深めるきっかけとなった様子です。さすがに環境をテーマにしたイベントだけあって、会場から出るゴミはなるべく少なく、分別も徹底、フリーマーケット等によるリサイクル、環境浄化微生物「えひめA-1」の無料配布などに取り組んでおられました。



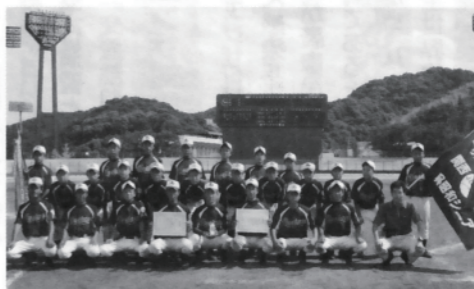
↑寄付したカヌーと記念撮影



↑助手席に乗っているのが私です

第4回大田祥子杯中学生野球大会

お盆の間に福山市民球場をメイン会場として開催されました。城南中学校のブラストの演奏をバックに入場行進をするなど、2日間にわたって熱戦を繰り広げました。結果は呉昭和シニアが優勝し、我が福山リトルシニアも3位と健闘しました。近い将来に福山からの甲子園出場を目指しています。



第5回グリーンライン駅伝

崖の上のポニーの舞台にもなったグリーンラインで、NPO法人グリーンラインを愛する会の協力のもと恒例の駅伝大会を開催しました。全17チームが参加し、小学校2年生から79歳までの102人のランナーが紅葉のグリーンラインを力走しました。



優勝:尾道ランニングチーム
2位:福山消防RC
3位:鞆の浦RUN DE ブー



皆さんこんにちは、大田ゆうすけです。春の改選以降、市議会最大会派「明政会」に入りました。広島大学の社会人大学院にも入学し、議員と大学院生の二足の草鞋を履いて頑張っています。夏は子供の生きる力を高めるために山野峡で「川遊び体験」を開催したり、山野町の休耕田を借りて農業にもチャレンジし、併せて中山間地域の振興策についても研究しています。

子供に自然体験学習を！

芦田川浄化基金

ありがとうございます

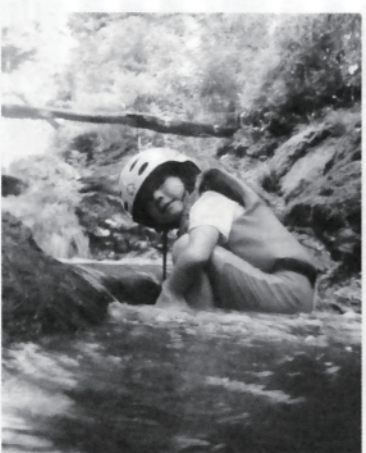
皆様よりご寄付をいただいた「芦田川浄化基金」により、子供用の川遊び用品(ライフジャケット・ヘルメット等)を購入しました。多額の寄付をいただき、ありがとうございました。今年も引き続きよろしくお願ひします。

平成20年	
収入	242,037円
支出	195,830円
残高	46,207円

基金振込先
郵便振替口座番号
01360-1-64376
口座名:大田祐介



おかげ様で夏は毎週のように山野峡で沢登りや魚捕りを行い、子供達は川で遊ぶ楽しさを実感するとともに、生きる力を育み、綺麗な川を守る必要性を感じたことと思います。私も「川に学ぶ体験活動協議会」の指導員講習を受け、「アウトドア・インストラクター」として頑張っています。



政務調査費について

近年、その不適切な使途が問題になっている政務調査費ですが、福山市は毎月13万円、年額156万円が支給されています。その使途基準は8項目にわたって定められていますが、真に「調査研究」に資する支出が望ましいと考えています。この新聞の発行費も「広報費」として認められています。政治活動との線引きが難しく、私としては政務調査費からの支出は自粛しようと思えます。

政務調査費については、アカウタビリティ(説明責任)の観点からその「有用性」が問題となります。「議員必携」には、議員の心構えの一つとして「批判するならば代案を出せ」と書かれていますが、議会質問においては、執行機関を批判するに終始し、代案を出すケースが少ないとの指摘もあります。ゆえに、政務調査費が交付されるようになって議員の政策立案能力が高まったと評価されなければなりません。さらにその評価が市民に伝わり選挙における得票に繋がれば、必然的に多くの議員のモチベーションも高まるのではないのでしょうか。

私の1期目の政務調査費研究の最大の成果は、旭化成ケミカルズとの共同研究により、河口堰の代替水源として下水処理水の工業用水への再利用にかかるコストを試算した事です。議員一人でできる調査には限界があり、今後はNPOやシンクタンクとの連携による政務調査もあり得るでしょう。そして2期目の政務調査は大学院における研究です。素晴らしい講師陣・指導教官・同級生に恵まれ、良い成果が挙げられそうです。

編集後記

皆様にお力添えいただき、無事に二期目をスタートすることができました。以前より代表質問に立つ事も少なくなり、ハラハラすることが減りましたが、今は「勉強の時」と腰を据えてがんばっています。秋には三好眼科の技術によりイメージチェンジもしています。どこが変わったかわかっただけですでしょうか?(笑)今後ともよろしく願ひします。(K子)

ホームページ <http://www.kkochan.com/>
メール orion@urban.ne.jp



子供達に農業体験を!

山野町に築100年以上の古民家「ゆうすけ山荘」を借り、子供に田舎暮らしを体験させています。山荘には五右衛門風呂・井戸・ダルマストーブがあり、井戸水でそうめん流しをしたりしました。さらに、山荘前の休耕田を耕して麦を植え、子供達には麦踏みなどの貴重な体験をさせています。



活動の様子はブログに掲載していますのでご覧下さい
<http://kkochan.exblog.jp/>

広島大学の大学院へ入学しました

4月より社会人のための大学院「社会科学研究所・マネジメント専攻」に入学し、週4日広島で地方自治・地域政策について勉強しています。皆様の元顔を顔を出す機会が減ったとは思いますが、議員としてこれ以上の勉強は無いと感じております。

研究テーマは、私のマニフェスト「芦田川水質ワースト1の返上」を実現するための「芦田川流域における環境政策について」です。具体的には芦田川流域における排水処理の費用対効果や、芦田川の水質汚濁が瀬戸内海の漁獲高に及ぼす影響について研究しています。そして、瀬戸内海が適切な人の関与による豊かな海「里海」となり、沿岸に住む3千万人の台所を潤す一助になればと考えています。何のためにワースト1を返上するか、その目的は「食糧問題」でもあるのです。

<履修科目>

(前期)		
火	地域分析	事業創造論
水	地域経済論	メディアコミュニケーション
木	組織行動論	地域政策論
土	組織倫理学	マルチメディア基礎論
(後期)		
地域政策課題研究		
月	地域開発論	経営戦略論
火	プロジェクト評価論	公経営論
木	ゼミナール	
土	ゼミナール	



福山城外堀遺構の保存について

駅前から出土した外堀の石垣ですが、個人的には多少タクシー乗り場やバス乗り場が遠くなったとしても、歩行者優先の緑と歴史・文化の香りがする「水辺公園プロジェクト」の案が素晴らしいと思います。残念ながら行政・議会共に「交通結節点」としての機能を重視する声が大きく、この案は実現困難な状況です。それならば地下送迎場も中止し地上でやりくりし、遺構はすべて埋め戻して活用は後世に託すべきだと考えます。どうしても地下を掘るなら、進入路にヘアピンカーブのあるような駐車スペースは作らず、外堀の中でリターンする機能のみ確保すれば、石垣の破壊も最小限で済むと提案しました。



環境基本計画について

現在、福山市では「環境基本計画」の素案を環境審議会で審議しています。私も審議会の委員であり、審議会には学識経験者、市民の代表、議会の代表といった方々が集まっています。12月22日から1ヶ月間、福山市のホームページに素案がアップされますので、ぜひ「パブリックコメント」をお寄せいただきたいと思っています。

- ① 計画的な下水道整備とともに、下水道への接続指導の徹底
- ② 合併浄化槽の普及、単独浄化槽から合併浄化槽への転換、維持管理の徹底
- ③ 芦田川きれい☆きれいプロジェクトの推進

最初に下水道の整備が挙がっていますが、

下水道の年間予算は200億円を超え、事業債(借金)も150億円あります。つまり建設コストも高く、維持管理も老朽化の問題もあり、将来にわたって考えれば持続可能性(サステナビリティ)の低い事業です。さらに今までも年間40〜50億円をかけて下水道整備を進めてきましたが、芦田川は相変わらずワースト1を更新中です。そろそろ下水道を整備すれば川が綺麗になるという考えから脱却する必要があるのではないのでしょうか。

下水道より即効性があり安価な合併浄化槽の普及や、芦田川きれい☆きれいプロジェクト(瀬戸川や高屋川の流域で行われている社会実験)例えば「フライパンの油は紙でふき取って洗いまじょう」といった台所における生活排水低減策を特定区域で集中的に行い、水質の改善効果を測定するプロジェクトです。これは一時的にせよかなりの水質改善効果が見られ、その啓発費用は30万円程度だったとのこと。費用対効果を考えれば、最初に取り組むのはこのようなプロジェクトです。

ポニョ効果で 朝・福山市に観光客誘致を!

映画「崖の上のポニョ」の効果で朝の観光客はかなり増加しているそうです。朝の特に平地区には映画のモデルになったと思われる建物や通りが随所にあり、朝・平は日本特有の風情のある魅力あふれる港町であるという宮崎監督の思いが伝わってきたような気がします。さらにグリーンラインの後山公園は、水没した「前山公園」として宗介とトキおばあさんが再会する重要なシーンで

	福山市で実施された選挙	全体の投票率	20~24歳の投票率	25~29歳の投票率
H19.4	広島県議会議員選挙	50%	24.7%	28.3%
H19.7	参議院議員選挙	55%	27.2%	35.6%
H20.4	福山市議会議員選挙	53%	26.1%	30.7%
H20.8	福山市長選挙	29%	13.1%	15.3%

有権者教育について

「判断力はどうすれば身につくのか。アメリカの有権者教育レポート」(横江公美著・PHP研究所発行)によれば、日本の若者は選挙に行きたくないわけではなく誰を選べばよいか判断できないそうです。つまり、判断力を養う有権者教育を受けていないということです。



→後山公園の東屋 (写真提供:グリーンラインを愛する会)

担っています。ぜひ映画をご覧になって「ロケ地めぐり」を試してみたいかがでしょう。

最近の選挙の結果を見ると、20代は全体の投票率の半分程度しか行っていないことがわかります。投票率が低い理由は我々候補者の責任もあるでしょうし、家庭教育の責任もあるでしょうが、やはり学校教育における有権者教育の取り組みが不足しているのではないのでしょうか。

- ① 中学生の職場体験「チャレンジウィーク」で市長公室や議会事務局による生徒の受け入れ
- ② 市長・議員の学校訪問(一緒に給食を食べる等の交流)
- ③ 市議会本会議場を使った「子供議会」の開催
- ④ 実際にいわれる選挙において「模擬投票」を実施し、将来の予行演習とする

新型インフルエンザ対策について

近年、鳥インフルエンザH5N1型が突然変異し、人から人へ感染する新型インフルエンザの発生懸念が高まっています。この感染症の症状は重篤であるとともに人は免疫を持たないことから、パンデミック(世界的大流行)となり、全世界的に社会・経済的ダメージをもたらすことが予測されています。伝染性の強い新型インフルエンザが日本で発生した場合、厚生労働省は3200万人が感染、64万人が死亡するという推計を出しています。これを福山市に当てはめると4人に1人が感染し、2000人が死亡することになります。自治体によっては新型インフルエンザに対する部局横断のプロジェクト

トチームを編成し、消防や介護施設などで使う感染防止機器などの購入など、独自の対策を進めています。

また、流行を食い止めるには、とにかく人の移動を阻止することであり、交通機関はストップし、多くの事業所は休業、工場は操業停止、学校は休校に追い込まれることになるとの予測もあります。ゆえに、新型インフルエンザ対策は国や地方自治体がすべてしてくれるわけではないということも、市民に周知する必要があると考えられます。いたずらに危機感をおおるのではなく、いかにして最小限の被害を抑えるかという啓蒙活動が必要と考えられます。

備後に プロサッカーチームを作ろう!

現在のJリーグは「J」に18チーム、「J2」に15チームでプロサッカーリーグを形成しています。その下の「JFL」への加入を目指す動きが福山であり、NPO法人スポーツクラブ・ナイスが「おらがサッカーチーム」 「地域密着型サッカーチーム」の創設を目指しています。ハードルは多いですが、あの鹿島アントラーズも創設時の鹿島市の人口は4万人であったところで、福山市でできないはずがありません。まちの活性化や子供達に与える「夢」の大きさも計り知れず、将来福山から日本代表選手が生まれるかもしれないという夢を一緒に追いかけてみませんか?

